

IV. 国内連携

IV-1. 大学教育ネットワークと MOST

1. 大学教育ネットワークについて

「大学教育ネットワーク (<http://www.highedu.kyoto-u.ac.jp/edunet/>)」は、全国の大学教員を対象として、その相互研修の場をオンライン上に展開することを目指して構築された(図1)。2003年度より提供していた「大学授業ネットワーク」を拡大、発展させ、2006年度より「大学授業データベース(旧、大学授業ネットワーク)」「大学教育研究フォーラム・アーカイブ&レビュー」「Web公開授業」の3プロジェクトで構成してきたが、2009年11月に大学教員のための教育研修システム「MOST」が加わり、2010年5月にWeb公開授業が終了し、現在は3つのプロジェクトで構成されている。提供開始から約1年間経過したMOSTは、2011年1月24日現在、登録者数270名、スナップショット数799件、コミュニティ数56件となっている。

オンラインFD支援システム「MOST」は、Web公開授業実践の課題や2008年に本センターのスタッフが訪問した米国カーネギー財団などの先進的事例を参考に、2009年度に開発され、本システムを利用したFD研修プログラムの開発を目指している。本節では、MOSTの取り組みを中心に報告をおこなう。なお、本センター主催の大学教育研究フォーラムにおける個人研究発表の要旨をPDFファイルで公開する「大学教育研究フォーラム・アーカイブ」は、2009年度分66件を掲載した。「大学授業データベース」および「大学教育研究フォーラム・レビュー」は、今年度コンテンツの追加はなかった。



図1 大学教育ネットワーク (<http://www.highedu.kyoto-u.ac.jp/edunet/>)

2. MOSTにおける取り組み

MOSTのトップページ（図2）からリンクされた「特徴あるFD実践の事例紹介」には、これまでに作成されたスナップショットの中から、代表的な事例を紹介している。今年度は、関西地区FD連絡協議会の「FD活動の報告会」向けに作成されたスナップショット17件（内2件はMOST以外で作成）を個別大学で行われている組織的なFD活動例として掲載した（III-1-2参照）。また、第16回大学教育研究フォーラムの個人研究発表の中から以下の5件の発表に対してスナップショット作成を依頼し、同様にMOST上に掲載した。依頼した5件のうち、4件は組織的なFDの取り組み、1件は個人の授業改善の事例であった。

- ・ 『愛媛県立医療技術大学における“初年次教育”の現状と課題—「初学者ゼミ」の取り組みを中心に—』澤田忠幸・鳥居順子・草薙康城・加藤徳雄・木下誠一（愛媛県立医療技術大学 保健科学部 看護学科）
- ・ 『ステューデント・アシスタントの自己省察を目的とした電子掲示板の活用状況に関する一考察』長瀬勇輝（大阪府立大和川高等学校）・今岡義明（関西大学教育開発支援センター）・遠海友紀（関西大学教育開発支援センター、大学院総合情報学研究科）・岩崎千晶（関西大学教育推進部）・水越敏行（大阪大学名誉教授）
- ・ 『TV会議システムやWEBを活用した相互研修型FD』藤原正敏（仁愛女子短期大学）・坪川武弘（福井工業高等専門学校）・福井県学習コミュニティ推進協議会（フレックス）FDチーム
- ・ 『山口大学共通教育における情報セキュリティ教育とFD活動の事例報告』小柏香穂理・市川哲彦・永井好和・赤井光治・王躍・（山口大学大学情報機構メディア基盤センター）・刈谷丈治（山口大学名誉教授）・糸長雅弘（山口大学教育学部）・小河原加久治（山口大学大学情報機構メディア基盤センター、大学院理工学研究科）
- ・ 『大学生における「どうして」の発話意図と発話状況』福田健（清泉女子大学文学部）

MOST内のコミュニティに関しては、運営側ですべての活動を把握できていないが、島根大学において教員と院生メンターで組織されるコミュニティがMOST内に複数作成され、業務遂行のための日常的なコミュニケーションツールとして本システムが活用された事例が報告されている（森ほか 2010）。また、前述の関西地区FD連絡協議会の会員校向けのコミュニティが作成されており、ピアレビューに関するリソースを会員校の教職員が共有している。



図2 MOST トップページ (<https://online-tl.org>)

3. システムの開発と改修について

(a) Web公開授業の提供終了とW-COSツールの開発

本センターでは、2006年度よりオンライン上で公開授業・検討会をおこなうための「Web公開授業」を提供してきたが、2010年5月24日に提供を終了した。しかし、2008年度まで関西地区FD連絡協議会の研究ワーキンググループ内に設置されたWeb公開授業研究サブグループのメンバーよりWeb公開授業を存続させて欲しいという要望があったことなどから、Web公開授業と同等の機能を有する「W-COS (Web-based Class Observation System)」ツールを、MOSTのコミュニティ内で利用できるようにSakaiツールとして昨年度末に開発し、設置した。

W-COSはMOST登録者がコミュニティ内で自由に追加し利用できるツールで、授業映像と掲示板を使った授業参観と授業検討会をおこなうことができる。以前のWeb公開授業のシステムでは、運営側で映像の準備や編集をおこない、それぞれ教員と学生を撮影した二画面の同期映像を視聴して掲示板上で検討会をおこなうものであったが、新たに開発したW-COSでは利用者の利便性を考慮し、デジタルビデオカメラで撮影した一画面の映像をそのまま用いることも可能である。YouTubeやUstream等、外部の映像配信サービスにアップロードされた映像に直接リンクすることもできる。

また、過去のWeb公開授業実践の知見を元に、W-COS上での授業検討会の運営用のマニュアルやKEEP Toolkitのスナップショットを作成するための授業提供者向けテンプレートも以下のURLで提供している。

URL: <https://online-tl.org/keep25/toolkit/html/snapshot.php?id=91634806982833>

(b) KEEP ToolkitとSakaiの改修

利用者などの要望などを受け、今年度中にMOSTでおこなった改修項目を以下に列挙する(原稿作成時点で一部未完成。年度内に提供予定)。

①KEEP Toolkit関連

- ・ ダッシュボード：日付の書式変更、アイコンのレイアウト変更（「編集」「公開設定」）
- ・ テンプレートギャラリー：「MOSTテンプレート」追加
- ・ テキストエディタ：電子ファイル・画像アップローダー追加（MCImageManager, MCIFileManager）
- ・ テキストエディタ：エディタサイズ変更、日本語入力のデフォルト文字サイズ変更、背景色ツールウィンドウサイズ修正
- ・ 送信機能の不具合修正：存在しないアドレスを入力するとエラー表示

②MOST (Sakai) 関連

- ・ コリグ申請：申請メールのテキスト変更、HELPへのリンク追加
- ・ コリグの申請許可時のメッセージ返信機能追加
- ・ ヘルプの日本語への置き換え
- ・ ノートツール：タイトルの文字サイズ変更、テーブル幅調整、「編集」「削除」「追加」ボタンのノート一覧への追加、記事追加時のコミュニティメンバーへのメッセージ送信機能追加
- ・ スナップショットの日時表示修正

③その他

- ・ オンラインギャラリー（仮称）のプロトタイプ作成
- ・ admin内リソース表示の一部修正
- ・ W-COSの掲示板機能をコミュニティ内ツールとして独立
- ・ ログ解析ツール開発

この他、マニュアル類の整備など、各種の改良をおこなった。

4. MOST講習会

教育関係共同利用拠点における業務として、本年度は6回の「MOST講習会」を企画し、4回実施した。対象者は、大学教員およびFDや教育改善に関わる大学職員、将来大学教員を目指す大学院生とした。各回の参加者数は、第1回（5月28日実施）が7名、第2回（7月16日実施）が6名、第3回（11月19日実施）が5名であった（第4回は未実施（3月11日））なお、第4回の講習会は、関西地区FD連絡協議会の会員校に所属する教職員向けの講習会で、協議会広報ワーキンググループとの共催で開催予定であり、次年度の「FD活動の報告会2011」と連動している。

このほか、MOSTのデモを、第16回大学教育研究フォーラムおよび大学院生のための教育実践講座の参加者に対して実施した。3月に開催される第17回大学教育研究フォーラムにおいても実施予定である（執筆時点で未実施）。MOSTの登録は招待制で、通常は事務局よりアカウントの発行をおこなっていないが、これらの講習会およびデモにおいては希望者にMOSTのアカウントの発行手続きをおこなっている。



写真1 MOST講習会の様子

5. 成果報告

MOSTに関わる成果報告一覧を以下に示す。今年度のISSOTL10において発表したポスターの原稿をV-2に、2010年12月10日におこなわれた情報教育研究集会における企画セッションでの発表PPTを本節の資料として掲載するので、そちらも参照されたい。

- ・酒井博之・田口真奈・笹尾 真剛 2010.9 オンラインFD支援システム「MOST」の活用—組織的FD活動の地域連携における適用—、日本教育工学会第26回全国大会講演論文集、433—434、金城学院大学

- ・酒井博之 2010.9.6 「オンライン FD 支援システム “MOST” と FD デザイン（話題提供）」
関西地区 FD 連絡協議会・FD デザイン研究 SG 第 1 回研究会、神戸大学
- ・Sakai, H. 2010.10 Building a technology-enabled network for sharing practical knowledge of faculty development across institutions, the 2010 International Society for the Scholarship of Teaching and Learning Conference (Poster Session) (Liverpool, U.K., Oct. 20, 2010)
- ・酒井博之 2010.12.10 「オンライン FD 支援システム”MOST”を活用した大学教育改善（話題提供）」情報教育研究集会 企画セッション「ICT を活用した組織的 FD」、京都テルサ
- ・酒井博之・田口真奈 2011.3 オンライン FD 支援システム「MOST」の活用—組織的カリキュラム改善を志向するコースポートフォリオへの適用—、第 17 回大学教育研究フォーラム、京都大学

6. 今後の展開について

次年度以降も、今年度に引き続き日本の大学における教育改善や FD に関する事例を、大学教育研究フォーラムの個人研究発表や、関西地区 FD 連絡協議会会員校における特徴的な取り組みなどを通じて、スナップショットとして作成し、蓄積、提供をおこなう。スナップショットがある程度蓄積されてきた後、MOST 利用者以外の一般の大学教員が利用可能なオンライン・ギャラリー（仮称）の構築を試みる予定である。そのためのプロトタイプを次年度までに作成する。また、これまでは組織的に取り組まれる FD 活動事例を重点的に収集してきたが、次年度からは個人教員や教員コミュニティが授業・コースの改善に利用できるような研修プログラムを、MOST を活用して構築、提供する予定である。

参考文献

- ・森朋子・雨森聡・酒井博之 2010.9 効果的な修学サポートを目指すプログラム・デザイン実験—認知的徒弟制における兄弟子の立ち位置に注目して—、日本教育工学会第 26 回全国大会講演論文集、653—654、金城学院大学

(酒井 博之)

情報教育研究会@京都デルタ
2010.12.10

企画セッション：ICTを活用した組織的FD

オンラインFD支援システム“MOST” を活用した大学教育改善

酒井 博之
京都大学 高等教育研究開発推進センター
sakai@z04.mbox.media.kyoto-u.ac.jp

報告の流れ

- 本センターの活動について
- MOSTについて
 - 開発の背景とMOSTのデザイン
 - MOSTの紹介
- MOST活用事例
 - 「FD活動の報告会」(関西地区FD連絡協議会)
- まとめと課題

高等教育研究開発推進センターの活動について

- 相互研修型FD
 - 「それぞれの教育組織や教員が、固有の文脈に即して自律的に築き上げてきた日常的な教育改善の努力にもとづき、教育組織間の協働と教員間の学び合いを通じて進める、主体的かつ組織化されたFD活動」(センターHPより)
 - 「同僚モデル」
 - 教育の質に対する責任を教員が負う
 - 互いの教育実践から学び合う

Matsushita (2009) を改変

『大学教員教育研修のための相互研修型FD拠点形成』(2008-12)

学内連携			地域連携	国内連携	国際連携
個人 公開授業・検討会 (1996～)	学部との 部局間連携 (2004～)	全学 FD研究検討委員会 (2006.12～)	関西地区FD連絡 協議会 (2008.4～)	大学教育研究フォーラム MIT FDネットワーク代表者会議 (JFDN) 若手FD研究者ネットワーク (JFDN Jr.)	研究交流： カーネギー財団 MIT インディアナ大学 ノースカロライナ大学 マギル大学 など 国際シンポジウム： オンライン 大学教育ネットワーク

4レベルにおけるFD拠点形成

拠点形成から共同利用拠点へ

相互研修型FD共同利用拠点 (2010～14) 教育関係共同利用拠点制度 (2009.9 文科省)

相互研修型FD共同利用拠点
拠点運営委員会

提供：学内拠点、地域拠点、全国拠点、国際拠点

利用：利用者 (国内高等教育機関・教職員・他)

『大学教員教育研修のための相互研修型FD拠点形成』(2008-12)

学内拠点、地域拠点、全国拠点、国際拠点

FD研究検討委員会 (2006.12～)、関西地区FD連絡協議会 (2008.4～)、大学教育研究フォーラム (1995)、FDネットワーク代表者会議 (2006)、若手FD研究者ネットワーク (2008)、オンラインFD支援環境構築 (2004)、大学教育ネットワーク (2004)、MOST (2009)

相互研修型FDへのICT活用

- FD拠点形成・共同利用
 - 学内・地域・全国レベルにおける個人・組織のネットワーク形成
 - これを前提としてFDや教育改善の活動にICTをどう活用するか
- 学士課程答申 (中教審 2008.12)
 - 「FDの推進に資する大学教育支援の拠点の設置について研究」(3.3.3 国によって行われるべき支援・取組)
 - 拠点の役割として「FDにおけるeラーニングやICTの活用」が「優れたFDの実践や革新的な教育方法に関する情報収集と提供」が挙げられている

MOST開発の背景

- Web公開授業実践から
- カーネギー財団の活動から



Web公開授業について

- オンライン版公開授業・検討会（2006-09）
 - 授業映像+電子掲示板
 - 2週間の授業検討会
 - 全国の大学教員約50名が参加
- 授業改善の日常化
 - 複数大学での実施による省力化
 - 場所、時間に拘束されない参加形態
- 所属組織を越えた学習コミュニティ構築



Web公開授業の課題

- オンライン上での議論に対する動機づけや維持
 - 「授業者」>「参加者」
 - 投稿数の減少
- 成果の共有・蓄積・発信
 - 対面の公開授業なども同様の課題
 - 解釈が個人に委ねられ、成果が形として残らない
 - 具体的知見が獲得されたり、気づきやリフレクションが促進されたという実感も得にくい
 - テキストで記述、発言することの困難さ
- オンライン上のコミュニティのあり方
 - 単一のコミュニティ、単純な拡大
 - 分野別がよいという意見も



カーネギー教育振興財団の活動

- センタースタッフ訪問（2008.5）
- SOTL (Scholarship of Teaching and Learning)
 - 「教授実践を記録・顕在化し、それを教師同士が分かち、互いに吟味し合い、互いの教授・学習に関する実践的知識を積み重ね合う試み」（飯吉 2002）
- 特徴
 - 教育をコミュニティの所有物とみなす
 - 教育実践の公開や出版を重視
 - 教育活動のピアレビュー (Peer Review of Teaching)
 - ISSOTL (SOTL国際学会)



カーネギー財団 知識メディア研究所

- 知識メディア研究所
 - ICTを活用したSOTL活動の支援
- KEEP Toolkit
 - 活動プロセスの各段階を可視化（スナップショット）
 - テンプレート
 - ボックスによる構造化、プロンプト
- オンラインギャラリーによる事例紹介
 - 300+のスナップショット

スナップショット



<http://gallery.carnegiefoundation.org/> スナップショットギャラリー

MOSTの開発にあたって

- 教育実践の顕在化、公開、共有
 - KEEP Toolkitの採用
 - 大学教育実践に関わる（分断された）個々の文脈に根ざしたローカルな知識や経験を単一のプラットフォーム上で共有
- 多様な実践コミュニティの活動の場
 - LMS (Sakai) の採用
 - 個別のニーズに応じた多様な教育上の課題を扱える
- 「Product」+「Process」
 - 対面を含めたトータルなFD実践の場の構築を目指す
 - 研修プログラムをどうデザインするか
 - FDのオンライン化ではない






MOSTについて
 Mutual Online System for Teaching and Learning
<https://online-tl.org>

 ←  

MOSTについて

- 対象者
 - 大学教員、職員、将来大学教員を目指す大学院生
- 招待制「インバイト」
 - 必ず「コリーグ」ができる
- オンラインコミュニティ
 - 登録者が自由に作成できる
- 登録しても何も起こらない
 - How-toリソースのレポートリではない
 - 「互助的貢献」が期待される段階


登録者数：266
 コミュニティ数：56
 スナップショット数：761
 (2010.12.1現在)



MOST マイワークスペース：個人の作業場



MOST KEEP Toolkit



スナップショットの作成事例

- テンプレートの指示に沿ってコンテンツを作成



テキストエディタによる編集

MOST コミュニティ



ユーザーがコミュニティを自由に作成できる
 コミュニティの公開・非公開は作成者の判断

コミュニティで利用できるツール

名称	内容
ノート	日々の記録を綴るためのツール (Blogger)
フォーラム	特定のコミュニティのフォーラムおよびトピックを表示するためのツール (Forum)
リソース	電子ファイルなどを共有するためのツール
Webリンク	スナップショットや外部のウェブサイトアクセスするためのツール
Wiki	ウェブページの協調編集のためのツール
W-COS	映像と掲示板を使って公開授業・検討会をおこなうためのツール
スケジュール	締切やイベントなどを投稿したり表示したりするためのツール
アナウンス	コミュニティメンバーに情報をポストするためのツール
用語集	用語集を作成するためのツール

事例：「FD活動の報告会」 (関西地区FD連絡協議会、2010.4)

関西地区FD連絡協議会 (2008.4-)

- 関西地区の大学・短期大学が参加するFDに関する地域連携拠点を旨とする互助組織
 - 会員校：133校 (115法人)
 - 代表幹事校：京都大学
- 5つのWG
 - FD情報支援、FD共同実施、FD連携企画、広報、研究
- 「FD活動の報告会」試行 (2010.4)
 - 会員校で組織的に実施されているFDや教育改善の活動について、「現状」と「課題」を情報交換



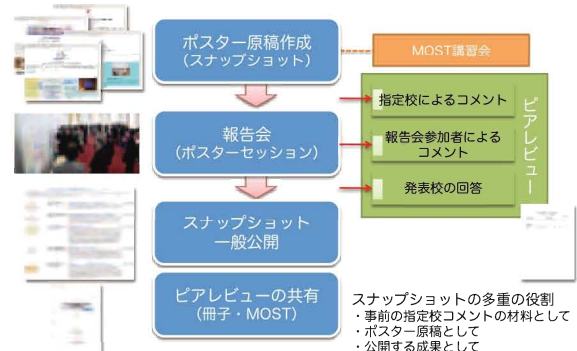
多様な大学、多様な取り組み

- 発表校 (17校)
 - 藍野大学、大阪大学、大阪市立大学、大阪成蹊大学、大阪府立大学、関西大学、京都大学、京都外国語大学、京都産業大学、京都橘大学、京都ノートルダム女子大学、神戸大学、滋賀県立大学、夙川学院短期大学、同志社大学、立命館大学、龍谷大学・龍谷大学短期大学部
- 発表内容
 - 組織の活動紹介、シラバス整備、授業アンケート、新任教員研修、学生参加型FD、部局間連携、授業参観、カリキュラム開発、キャリア形成、教員評価、学習コミュニティ形成、授業コンサルティング、ICT活用

ポスターセッションの様子



「FD活動の報告会」のデザイン



組織的FDポートフォリオ・テンプレート

- 「FD活動の報告会」向けに作成
- ピアレビューのための工夫
 - 「取り組みの視点」ボックス
 - 参加者からコメントを希望する点の記述を促す



テンプレート



ピアレビューコメントの分類

- 取組に対する評価
 - 「「学ぶ」ことに視座の中心を置いたロールモデルを育成するのは能動的な学習能力を高めるのに効果的・・・」
 - 「授業参加に止まらず、意見交換会や検討会を開催して成果を確認している点も評価できる」
- 課題の提示
 - 「様々な試みが学部単位にどのように活かされていくのか・・・」
 - 「基礎学力や思考力を向上するための取組も必要ではないか・・・」
- 提案・助言
 - 「新任教員間の横の連携ができるようなプログラムも・・・」
- 所属大学への言及
- 「取り組みの視点」に対する回答
- 質問
- 意見・感想

アンケート結果より

- ポスターセッションの満足度
 - 4.26 (回答数57件、5段階評定)
- ポスターセッション自体に関して
 - 「実際のFD実践から学ぶのがよい」
 - 「一方的に話を聴くのと異なる良さがあった」
 - 「すべての参加校がポスターを出すのもっと良かった」
- スナップショット、ピアレビューに関して
 - 「HPでも公表されるそうですので必ず確認します」
 - 「ピアレビューは大変良いと思う」

まとめと課題

まとめと課題

- 「FD活動の報告会」におけるMOSTの有効性
 - スナップショットの多重の役割
 - 組織的な教育の質的向上に結びつくかの検証は今後の課題
- 対話や協調活動の誘発装置としてのスナップショット
 - 作成や共有の過程で教員間のインタラクションが生成する
- コミュニティをどうデザインするか
 - 潜在性は認識されるが活用できていない
 - 成果のアウトプットを研修プログラムに組み込む
- 教材化への可能性
 - 分類・体系化

今後の予定

- コースポートフォリオ (2011～)
 - 単一コースを対象としたeポートフォリオ
 - 個人教員を対象としたコース改善プログラム開発
 - ・ テンプレート開発、ピアレビュー活動
- 組織的なカリキュラム改善へ
 - 組織における分野別質保証 (日本学会議 2010) への対応
 - 各組織でローカライズ可能な実践モデルの作成

IV-2. 大学教育研究フォーラム

1. 概要

大学教育研究フォーラムは、京都大学高等教育研究開発推進センターが主催し、1994年度より毎年1回開催してきたものである。今年で17回目を迎える（2011年3月17日・18日開催）。毎年400～500名の大学教職員・関係者が参加する、全国的にも広く認知された大学教育改善に関する研究・実践交流の場である。

同フォーラムは、FD（ファカルティ・ディベロップメント）や教授法、教育評価、遠隔教育といった諸領域における、学内・学外の大学教育関連の最先端の実践知をあまねく集積する場として開催するものである。最近の趨勢をふまえた最先端の知見は、学内外の教育改善推進に大きく貢献すると考えられている。

特別経費「大学教員教育研修のためのモデル拠点形成」を受けて、大学教育研究フォーラムは国内連携事業の一つとして運営されている。

2. プログラムの特徴

大学教育研究フォーラムは、毎年、①シンポジウム、②特別講演、③小講演、④ラウンドテーブル、⑤個人研究発表から構成され実施しているが、2010年度は、以下2点の変更をおこなっている。

- ・②の特別講演を①シンポジウムのなかに組み込み、包括的なプログラムとする
- ・④のラウンドテーブルのなかに、センター活性化経費を利用して3件の特別企画ラウンドテーブルを企画する

以下は、各プログラムの特徴、ならびに本年度の具体的プログラムである。

①シンポジウム 大学教育実践に関わる時宜にかなったテーマを取り上げ、パネリストとフロア参加者を含めた討論をおこなう。本年度は、「単位制度から見る教授学習・カリキュラム」というテーマのもと、以下の登壇者に単位制度、教授学習・カリキュラムに関する基調報告（森、溝上）・事例報告（森本、伊藤、澤登）をおこなってもらおう。

報告者1： 森 利枝（大学評価・学位授与機構 学位審査研究部 准教授）

「単位制度の基盤と今日的課題－時間と成果－」

報告者2： 溝上 慎一（京都大学高等教育研究開発推進センター 准教授）

「授業・授業外学習パターンから見る学生の学びと成長」

報告者3： 森本 剛（京都大学大学院医学研究科 医学教育推進センター 講師）

「医学教育におけるモジュールカリキュラムと履修制度」

報告者 4： 伊藤 浩行（広島大学大学院工学研究科 准教授）

「工学系数学教育における新たな授業制度の試み

－週複数回授業、成績更新型履修制度、単元クレジット制－」

報告者 5： 澤登 秀雄（創価大学教務部 課長）

「オーナーズ・プログラムの可能性－学習時間の確保と学習コミュニティの形成－」

②小講演 各論的に、具体的なトピックを 8 つ取り上げ、最先端の知見を提供する。本年度は下記のテーマで講演者に依頼をおこなっている。

・村上 正行（京都外国語大学マルチメディア教育研究センター准教授）

「ICT を活用した大学授業・FD の現在と未来」

・南部 広孝（京都大学大学院教育学研究科准教授）

「東アジアにおける高等教育の質保証」

・丸山 恭司（広島大学大学院教育学研究科准教授）

「大学教員養成課程をつくる－組織的なプレ FD を通して同僚性を育む試み－」

・山中 淑江（立教大学学生相談所教授）

「全学的学生支援における学生相談の役割」

・秦 敬治（愛媛大学教育企画室准教授）

「組織的 SD とそのための教職協働－SPOD における事例から－」

・遠藤 隆久（熊本学園大学商学部教授）

「学生自身が成長していると実感する「学び」を育む－『西の魔女が死んだ』を教材として－」

・鈴木 真理子（滋賀大学教育学部教授）

「大学が支援する知のネットワーク

－サイエンスコミュニケーション・デザインを支援しよう－」

・鳥居 朋子（立命館大学教育開発推進機構教授）

「質保証の文脈におけるデータに基づく教育改善－支援機能としての IR に注目して－」

③ラウンドテーブル ある特定のテーマでの研究・実践交流を促す目的で、一般参加者から募集する。本年度のフォーラムでは「理論と実践を行き来する大学教育における実践的研究」「学生とともに進めるFD」など 6 件の応募があった。なお、上述の通り、今年はセンター活性化経費を利用して、センター関係者より以下 3 件の特別企画ラウンドテーブルを企画している。

・特色ある大学英語教育の取り組み－カリキュラム開発から評価まで－

企 画：田地野 彰（京都大学高等教育研究開発推進センター）

・新たな SD 論の展開に向けて－理論と実践の狭間で－

企 画：山本 淳司（京都大学教育推進部）

・プレ FD の展開と今後の課題－我が国における先端事例を通じて－

企 画：田口 真奈（京都大学高等教育研究開発推進センター）

④個人研究発表 「FD・授業公開」「教育評価」「カリキュラム」「授業研究」「教育評価」「e-Learning・遠隔教育」「大学生・大学生活」の研究部会を用意し、大学教育実践研究の交流

の場としている。本年度のフォーラムでは、72件の応募があった。昨年申し込みが67件であったから、申し込みは増加傾向にあると言える。

3. 関西地区 FD 連絡協議会との同時実施

本年度の第17回大学教育研究フォーラムは、特別経費「大学教員教育研修のためのモデル拠点形成」の国内連携事業の一つとして、昨年度までの形態を踏襲して2日間プログラムで実施する。

しかし、特別教育研究のプロジェクトには地域連携としての関西地区 FD 連絡協議会の活動があり、昨年度よりその連携をはかることが大学教育研究フォーラムの工夫・発展として考えられている。本年度は、前日の3月16日に、第7回関西地区 FD 連絡協議会主催イベント「授業評価ワークショップⅡ」を企画している。こうしてフォーラムは、実質上3日間プログラムとして実施されている。

4. 付録資料

- 『第17回大学教育研究フォーラム プログラム』（web上でも公開、下記参照）
(http://www.highedu.kyoto-u.ac.jp/forum/2010/program_2010.pdf)

(溝上 慎一)

第17回 大学教育研究フォーラム プログラム

2011.3.17THU・**18**FRI

京都大学 吉田南構内1号館

【個人研究発表・ラウンドテーブル企画】：1号館／総合館(吉田南構内)

【小講演】：1号館(吉田南構内)

【特別企画ラウンドテーブル】：総合館(吉田南構内)

【シンポジウム】：百周年時計台記念館・1F百周年記念ホール(本部構内)

【情報交換会】：百周年時計台記念館・2F国際交流ホール(吉田南構内)

主催：京都大学高等教育研究開発推進センター

本研究フォーラムは特別教育研究「大学教員教育研修のための相互研修型FD拠点形成」の一環です。
特別企画ラウンドテーブルは部局活性化経費による事業です。

協賛：関西地区FD連絡協議会

※本プログラムは下記 Web 上で、PDF 版を公開しています。
<http://www.highedu.kyoto-u.ac.jp/>

第17回大学教育研究フォーラム

◆日程 2011年3月17日(木)～18日(金)

◆会場 京都大学 吉田キャンパス

【個人研究発表・ラウンドテーブル企画】 1号館/総合館(吉田南構内)

【小講演】 1号館(吉田南構内)

【特別企画ラウンドテーブル】 総合館(吉田南構内)

【シンポジウム】 百周年時計台記念館・1F百周年記念ホール(本部構内)

【情報交換会】 百周年時計台記念館・2F国際交流ホール(吉田南構内)

3月17日(木)

受付 8:00～11:00 ……【1号館・共106】
12:30～13:00 ……【百周年時計台記念館・1F百周年記念ホール】

個人研究発表(1) 9:00～10:45 ……【1号館/総合館】

9:00～9:20 個人発表①

9:20～9:40 個人発表② *1人あたりの時間20分

9:40～10:00 個人発表③ (発表時間15分+質疑応答3分+2分交代)

10:00～10:20 個人発表④

10:20～10:45 全体討論

小講演(1) 11:00～12:00 ……【1号館】

シンポジウム 13:00～17:00 ……【百周年時計台記念館・1F百周年記念ホール】

開会の挨拶 13:00～13:10 松本 紘(京都大学総長)

シンポジウム 13:10～17:00

「単位制度から見る教授学習・カリキュラム」

報告者1 森 利枝(大学評価・学位授与機構学位審査研究部准教授)

報告者2 溝上 慎一(京都大学高等教育研究開発推進センター准教授)

報告者3 森本 剛(京都大学大学院医学研究科・医学教育推進センター講師)

報告者4 伊藤 浩行(広島大学大学院工学研究院准教授)

報告者5 澤登 秀雄(創価大学教務部課長)

司会 大塚 雄作(京都大学高等教育研究開発推進センター教授)

松下 佳代(京都大学高等教育研究開発推進センター教授)

情報交換会 17:30～19:30 ……【百周年時計台記念館・2F国際交流ホール】

3月18日(金)

受付 8:30~13:30 【1号館・共106】

個人研究発表(2) 9:00~10:45 【1号館/総合館】

9:00~9:20 個人発表①

9:20~9:40 個人発表② *1人あたりの時間20分

9:40~10:00 個人発表③ (発表時間15分+質疑応答3分+2分交代)

10:00~10:20 個人発表④

10:20~10:45 全体討論

小講演(2) 11:00~12:00 【1号館】

特別企画ラウンドテーブル 13:30~16:00 【総合館】

*部局運営活性化経費による事業

ラウンドテーブル企画 13:30~16:00 【1号館/総合館】

3月17日(木)

第1日

個人研究発表(1) 9:00~10:45

A-1. 教育評価研究会

座長：南 学 ……………【会場：総合館・共北31】

国立大学におけるSDの現状－ヒアリング調査報告を中心として－

岩崎保道（琉球大学大学評価センター）

中元 崇（京都国立近代美術館）

教育研究を担う任期制教員の現状と課題（その2）

佐藤龍子（静岡大学大学教育センター）

「学長インターンシップ」におけるFD・SDの効果

伊東幸宏・佐藤龍子・山下義保（静岡大学）

授業評価の改善は、教員にどのように捉えられたか

南 学・中西良文・松浦 均（三重大学高等教育創造開発センター・三重大学教育学部）

中島 誠（三重大学高等教育創造開発センター）

B-1. カリキュラム研究会

座長：鈴木真理子 ……………【会場：総合館・共北32】

カリキュラム編成と大学間連携－教育財アプローチによる実践への一試論－

村中 均（常磐大学国際学部）

教育研究機関の枠を超えたネットワークによる科学コミュニケーション関連教材開発事例

－米国 Lawrence Hall of Science に注目して－

都築章子・藤田喜久・今宮則子・平井和也（NPO 法人海の自然史研究所）

鈴木真理子（滋賀大学教育学部）

Craig Strang（Lawrence Hall of Science, University of California, Berkeley）

経済学教育におけるアクティブラーニングの活用

水野英雄（愛知教育大学教育学部）

大学入学者の数学的言語力について－2010数学コンピテンシーテストの結果より－

水町龍一（湘南工科大学工学部）

御園真史（島根大学教育学部）

C-1. 授業研究部会

座長：長田尚子 ……………【会場：総合館・共北25】

地域連携の実践型アントレプレナーシップ教育の成果

ー4年間を通じた人材育成の取り組みを通じてー

兼本雅章（共愛学園前橋国際大学）

原田紀久子（特定非営利活動法人アントレプレナーシップ開発センター）

石磨き授業

朝野浩行（東京学芸大学教育学部）

ポートフォリオを活用した授業改善の試みー学生と教師の成長を目指してー

村上裕美（関西外国語大学短期大学部）

専門教育科目を通じたキャリア教育体系充実の試み

ー短期大学におけるプロジェクト学習のデザインと評価ー

長田尚子・村田信行（清泉女学院短期大学国際コミュニケーション科）

C-2. 授業研究部会

座長：杉田由仁 ……………【会場：総合館・共北26】

博士課程大学院生のプロジェクトベースドラーニングにおける分業分析

奥本素子・岩瀬峰代（総合研究大学院大学学融合推進センター）

サイエンス・コミュニケーションのための大学と地域の協働ー水圏環境リーダーの役割認識の変容ー

池田玲子・山本 晃（東京海洋大学海洋科学部）

英語のライティングにおける学生の盗用(plagiarism)と借用(textual borrowing)に関する考察

佐々木有紀（国際教養大学EAP）

授業評価結果に基づくFD活動事例ー学生による授業評価結果に対する教員の自己評価の質的分析ー

杉田由仁・吉田文子・田淵和子・依田純子・平田良江・小林美雪・流石ゆり子

（山梨県立大学看護学部）

C-3. 授業研究部会

座長：中西良文 ……………【会場：総合館・共北27】

College Readiness「大学教育準備性」ーどのようにして入学式前にその修得を促すかー

菅野憲司（千葉大学文学部）

「協同学習としてのチーム学習の枠組みと効果」ー初年次教育への利用可能性と展望ー

長尾 尚（大阪信愛女学院短期大学）

奥田三郎（大阪私学教育情報化研究会）

齊尾恭子（関西大学教育開発支援センター）

学士力に対応した全学的初年次教育の展開⑦

ー2009年度受講生を対象とした修学達成度評価の検討ー

中島 誠（三重大学高等教育創造開発センター）

中西良文（三重大学高等教育創造開発センター・教育学部）

長濱文与・中山留美子（三重大学高等教育創造開発センター）

学士力に対応した全学的初年次教育の展開⑧ー2010年度の実践報告ー

長濱文与・中島 誠・中山留美子（三重大学高等教育創造開発センター）

3月17日(木)

D-1. FD・授業公開研究部会**座長：木野 茂** ……………【会場：1号館・共311】

授業コンサルテーションにおけるコンサルティにもたらされる有効性の検討

田中さやか・香川順子（徳島大学大学開放実践センター）

神藤貴昭（立命館大学文学部）

川野卓二（徳島大学大学開放実践センター）

大学教育におけるゲーミング・シミュレーションの活用事例

ーFD研修用ゲーミングツール「クロスロードー新任教員編ー」作成の試みー

家島明彦（島根大学教育開発センター）

学生参加型FDの盛衰に関する研究

服部憲児（大阪大学大学教育実践センター）

学生とともに進めるFDーその現況と課題ー

木野 茂（立命館大学共通教育推進機構）

大崎雄二（法政大学社会学部）

D-2. FD・授業公開研究部会**座長：吉田雅章** ……………【会場：1号館・共207】

大学間連携を活用した教員の能力開発活動ー小規模校のFD実践ー

松本高志（阿南工業高等専門学校）

FD活動の検証ー北海道教育大学十年間の実践ー

瀬川良明（北海道教育大学大学教育開発センター）

「授業コンサルテーション」の効果測定ー効果的な授業改善プログラムの開発に向けてー

安野舞子（横浜国立大学大学教育総合センター）

授業改善を目的とするFD活動の比較考察

吉田雅章（和歌山大学経済学部）

E-1. e-Learning・遠隔教育研究部会**座長：酒井博之** ……………【会場：総合館・共北28】

機関連携型大学院教育における教育資料の共有化

洞田慎一（総合研究大学院大学葉山情報ネットワークセンター・学融合推進センター）

奥本素子・岩瀬峰代（総合研究大学院大学学融合推進センター）

ユビキタス・キャンパスにおける学生主体のモバイルデバイス活用促進プロジェクト

奥田雄一郎・小柏伸夫（共愛学園前橋国際大学高等教育研究センター）

学生からの視点によるクリッカーが効果的に機能するための要因の検討

須藤 智・佐藤龍子（静岡大学大学教育センター）

オンラインFD支援システム「MOST」の活用

ー組織的カリキュラム改善を志向するコースポートフォリオへの適用ー

酒井博之・田口真奈（京都大学高等教育研究開発推進センター）

F-1. 大学生・大学生生活研究部会

座長：内田賢一 …………… 【会場：1号館・共208】

ペア制度を用いた大学ゼミにおける学びの継承可能性

山田嘉徳（関西大学大学院心理学研究科）

大学生の素朴レポートライティング観とその学年間比較

岩男卓実（明治学院大学心理学部）

理学療法士を目指す大学生のVPI職業興味検査による職業適性と心理的傾向について

内田賢一・高木峰子・鈴木智高・川村博文（神奈川県立保健福祉大学保健福祉学部）

濱野俊明（藤沢市民病院）

3月17日(木)

小講演(1) 11:00~12:00

ICTを活用した大学授業・FDの現在と未来 ……………【会場：1号館・共312】

村上 正行（京都外国語大学マルチメディア教育研究センター准教授）

【司会】酒井 博之（京都大学高等教育研究開発推進センター特定准教授）

東アジアにおける高等教育の質保証 ……………【会場：1号館・共208】

南部 広孝（京都大学大学院教育学研究科准教授）

【司会】石川 裕之（京都大学高等教育研究開発推進センター特定助教）

大学教員養成課程をつくる

—組織的なプレFDを通して同僚性を育む試み— ……………【会場：1号館・共311】

丸山 恭司（広島大学大学院教育学研究科准教授）

【司会】田中 每実（京都大学高等教育研究開発推進センター教授）

全学的学生支援における学生相談の役割 ……………【会場：1号館・共207】

山中 淑江（立教大学学生相談所教授）

【司会】及川 恵（京都大学高等教育研究開発推進センター特定准教授）

シンポジウム 13:00~17:00

会 場 百周年時計台記念館・1F百周年記念ホール

開会の挨拶 13:00~13:10

松本 紘(京都大学総長)

シンポジウム 13:10~17:00

「単位制度から見る教授学習・カリキュラム」

趣 旨

大学設置基準で定められ、今日の大学教育改革を推進する上で大きくのしかかっているものの一つに、単位制度があります。とくに15回の授業実施、期末試験をどこに入ればよいか、授業外学習時間をどう確保し実質化すればよいかについては、多くの大学関係者を悩ませているところです。しかし、私たちはこの単位制度とうまくつきあいながら、教育改革を推進していかなければなりません。そして、学生が良い形で学び、成長するために、現場のカリキュラムや教授学習をデザイン、リデザインしていかねばなりません。

今回のシンポジウムでは、単位制度に関する基本的知識、一般的な考え方、学生が成長する学習パターンなどを確認しながら、単位制度の現実のなかで、理想とする学士課程教育を実現するべく、カリキュラム、教授学習の改革に取り組んでいる3つの先進的事例の報告をうかがいます。単位制度をにらみつつも、大学独自の学士課程教育を推進するうえでの視点を、先進事例から学びたいと考えます。

報告者1 森 利枝(大学評価・学位授与機構学位審査研究部准教授)

「単位制度の基盤と今日的課題—時間と成果—」

報告者2 溝上 慎一(京都大学高等教育研究開発推進センター准教授)

「授業・授業外学習パターンから見る学生の学びと成長」

報告者3 森本 剛(京都大学大学院医学研究科・医学教育推進センター講師)

「医学教育におけるモジュールカリキュラムと履修制度」

報告者4 伊藤 浩行(広島大学大学院工学研究院准教授)

「工学系数学教育における新たな授業制度の試み
—週複数回授業、成績更新型履修制度、単元クレジット制—」

報告者5 澤登 秀雄(創価大学教務部課長)

「オナーズ・プログラムの可能性
—学習時間の確保と学習コミュニティの形成—」

司 会 大塚 雄作(京都大学高等教育研究開発推進センター教授)

松下 佳代(京都大学高等教育研究開発推進センター教授)

3月18日(金)

第2日

個人研究発表(2) 9:00~10:45

C-4. 授業研究部会

座長：田地野彰……………【会場：総合館・共北31】

学生たちと授業づくりを楽しむ「授業運営委員会」

長谷川伸（関西大学商学部）

情報リテラシー教育と初年次教育を融合させた授業展開

竹田尚彦（愛知教育大学情報教育講座）

複数回連続授業コンサルティングによる授業改善例とその改善効果

倉茂好匡（滋賀県立大学教育実践支援室）

英語アカデミックライティングの評価指標の構築に向けて

高橋 幸（京都大学高等教育研究開発推進機構）

金丸敏幸（京都大学大学院人間・環境学研究科）

日高佑郁（京都大学大学院人間・環境学研究科）

寺内 一（高千穂大学商学部）

飯島優雅（獨協大学経済学部）

田地野彰（京都大学高等教育研究開発推進センター）

C-5. 授業研究部会

座長：杉原真晃……………【会場：総合館・共北32】

大学生における「どうして」の発話意図と発話状況（2）

福田 健（清泉女子大学文学部）

「学びの共同体」づくりが大学授業研究に示唆するもの

田中裕喜（滋賀大学教育学部）

作業療法教育における形成的評価導入の試み

小山内隆生・加藤拓彦・田中 真・和田一丸（弘前大学大学院保健学研究科）

教養教育の授業における学生の主体性形成—学習共同体での役割の再構築に着目して—

杉原真晃（山形大学基盤教育院）

C-6. 授業研究部会

座長：森 朋子 ……………【会場：総合館・共北25】

文系大学院ゼミナールにおける発表者の研究プロセスへ着目したコメントを促す実践と評価

館野泰一・木村 充（東京大学大学院学際情報学府）

中原 淳（東京大学大学総合教育研究センター）

学びあいからの内省と論文の向上

小林至道（青山学院大学大学院文学研究科）

杉谷祐美子（青山学院大学教育人間科学部）

理解確認と理解深化を取り入れた大学授業－統計教育と心理学教育を題材に－

植阪友理（日本学術振興会・東京工業大学）

屋上緑化を活用し、フィールド観察と発表と結びつけた農学系初年次教育

－学部と大教センター協働による実践的教育研究－

小林和広（島根大学生物資源科学部）・森 朋子（島根大学教育開発センター）

C-7. 授業研究部会

座長：中村章二 ……………【会場：総合館・共北26】

MOSTを使用した授業コースデザインの省察－アクティブ・ラーニング形態の授業を対象に－

大山牧子（京都大学大学院教育学研究科）

田口真奈（京都大学高等教育研究開発推進センター）

Webカメラを用いた簡易応答確認装置

吉村匠平（大分県立看護科学大学看護学部）

物理的概念を直感的に把握させる演示実験およびその教育効果の定量評価法の開発

三浦裕一（名古屋大学大学院理学研究科）

学期制度改革の第二段階－学期制度の多様化と教育の質保証に向けて－

中村章二（愛知教育大学）

D-3. FD・授業公開研究部会

座長：平山朋子 ……………【会場：1号館・共311】

哲学教育に関する情報共有システム構築

久保田祐歌（立教大学大学教育開発・支援センター）・菊地建至（関西大学文学部）

村上祐子（東北大学理学研究科）

看護学部教員活動報告会の実際と今後の展望

人見裕江・戸田登美子・笹谷孝子・初田真人・藤田敦子・西池絵衣子・三木佳子・神原咲子

（近大姫路大学看護学部）

学習評価に焦点をあてた協働的FDの組織化

－理学療法教育におけるOSCE-Rの開発・改訂と機関間連携－

平山朋子（藍野大学医療保健学部）・松下佳代（京都大学高等教育研究開発推進センター）

西村 敦（大阪保健医療大学附属大阪リハビリテーション専門学校）

3月18日(金)

D-4. FD・授業公開研究部会

座長：栗田佳代子……………【会場：1号館・共312】

佐賀大学におけるティーチング・ポートフォリオの導入とその問題点の解決策について

皆本晃弥（佐賀大学理工学部・高等教育開発センター）

ティーチング・ポートフォリオによる組織的な教育改善

北野健一（大阪府立工業高等専門学校）

芝浦工業大学工学部におけるFD活動の事例報告

ーティーチングポートフォリオ作成ワークショップー

ホートン広瀬恵美子・榊原暢久（芝浦工業大学工学部）

ティーチング・ポートフォリオの作成支援環境の提案

栗田佳代子（大学評価・学位授与機構評価研究部）

D-5. FD・授業公開研究部会

座長：小川 勤……………【会場：1号館・共313】

科目間のつながりから教員間のつながりづくりを目指す学習コンテンツの作成

長谷川紀幸（横浜国立大学工学研究院）

島根大学における補完教育プログラムの展開とその問題点

雨森 聡・森 朋子（島根大学教育開発センター）

FD活動事例：教員相互の授業参観とその一分析

ー参観した教員から提出された授業参観記録の質的分析ー

吉田文子・杉田由仁・田淵和子・平田良江・依田純子・小林美雪・流石ゆり子
（山梨県立大学看護学部）

CUMやCFCの作成を通して明確化された学士課程教育の課題

小川 勤・岩部浩三・吉田香奈（山口大学大学教育センター）

E-2. e-Learning・遠隔教育研究部会**座長：大森不二雄** ……【会場：総合館・共北28】

子どもと家庭を支援する現職社会人の実践知に学ぶファミリーソーシャルワーク教育

新川泰弘（三重中京大学短期大学部）・芝野松次郎（関西学院大学人間福祉学部）

eラーニング大学院における社会人学生としての大学職員の

学習プロセス事例とSD実践研究の可能性について

中島康二（大阪学院大学ITセンター）

中野裕司（熊本大学総合情報基盤センター）

大森不二雄（首都大学東京大学教育センター）

鈴木克明（熊本大学大学院社会文化科学研究科）

ICTツールを活用した教育改革の可能性

穂屋下茂（佐賀大学高等教育開発センター）

角 和博・中村隆敏（佐賀大学文化教育学部）

高崎光浩（佐賀大学医学部）

大谷 誠（佐賀大学総合情報基盤センター）・藤井俊子（佐賀大学高等教育開発センター）

越境するeラーニング戦略ー大学と企業のボーダーレス化、学びと実践の融合ー

大森不二雄（首都大学東京大学教育センター）

花木喜英（熊本大学大学院社会文化科学研究科・株式会社レビックグローバル）

宇野令一郎（ビジネス・ブレイクスルー大学）

F-2. 大学生・大学生生活研究部会**座長：尾澤重知** ……【会場：1号館・共207】

大学生を対象にしたロールレタリングの試み

佐瀬竜一（大阪国際大学人間科学部）

大学生の自己調整学習方略と学習動機、学習行動の関連性

畑野 快（京都大学大学院教育学研究科）

学生は授業中何をしているのか？ーノートテイキング、内職、私語に関する予備的研究ー

尾澤重知（早稲田大学人間科学学術院）

江木啓訓（東京農工大学総合情報メディアセンター）

F-3. 大学生・大学生生活研究部会**座長：岩瀬峰代** ……【会場：1号館・共208】

大学生の授業・授業外学習観に関する検討

蔣 妍（京都大学大学院教育学研究科）

文系学部の専門科目としてのゼミナールにおける学習者要因および学習環境と学習成果の関係

伏木田稚子（東京大学大学院学際情報学府）

自立的な研究者育成プログラムの開発と評価

岩瀬峰代・奥本素子（総合研究大学院大学学融合推進センター）

3月18日(金)

小講演(2) 11:00~12:00

組織的SDとそのための教職協働－SPODにおける事例から－ …………… 【会場：1号館・共311】
秦 敬治（愛媛大学経営情報分析室准教授）

【司会】大塚 雄作（京都大学高等教育研究開発推進センター教授）

学生自身が成長していると実感する「学び」を育む
－『西の魔女が死んだ』を教材として－ …………… 【会場：1号館・共208】
遠藤 隆久（熊本学園大学商学部教授）

【司会】溝上 慎一（京都大学高等教育研究開発推進センター准教授）

大学が支援する知のネットワーキング
－サイエンスコミュニケーション・デザインを支援しよう－ …………… 【会場：1号館・共207】
鈴木 真理子（滋賀大学教育学部教授）

【司会】松下 佳代（京都大学高等教育研究開発推進センター教授）

質保証の文脈におけるデータに基づく教育改善
－支援機能としてのIRに注目して－ …………… 【会場：1号館・共312】
鳥居 朋子（立命館大学教育開発推進機構教授）

【司会】田口 真奈（京都大学高等教育研究開発推進センター准教授）

特別企画ラウンドテーブル 13:30~16:00 * 部局運営活性化経費による事業
特色ある大学英語教育の取り組み

ーカリキュラム開発から評価までー …………… 【会場：総合館・共北31】

企画：田地野 彰（京都大学高等教育研究開発推進センター）

話題提供：島田 雅晴（筑波大学人文社会科学研究科・外国語センター）

渡辺 敦子（国際基督教大学英語教育課程）

渡邊（金） 泉（国際基督教大学英語教育課程）

田近 裕子（津田塾大学英文学科）

来住 伸子（津田塾大学情報科学科）

飯島 優雅（獨協大学経済学部）

辻田 麻里（獨協大学外国語学部）

金丸 敏幸（京都大学大学院人間・環境学研究科）

指定討論：寺内 一（高千穂大学商学部）

司 会：高橋 幸（京都大学高等教育研究開発推進機構）

新たなSD論の展開に向けてー理論と実践の狭間でー …………… 【会場：総合館・共北32】

企画：山本 淳司（京都大学教育推進部）

話題提供：上田 理子（札幌市立大学事務局）

清水 栄子（阿南工業高等専門学校）

秦 敬治（愛媛大学教育・学生支援機構）

秋谷 恵子（愛媛大学経営企画部）

松永 倫紀（京都大学教育推進部）

蜂屋 大八（山形大学学務・入試企画室）

渡部 秀明（東京工業大学総務部）

指定討論：各務 正（順天堂大学総務局）

司 会：山本 淳司（京都大学教育推進部）

プレFDの展開と今後の課題ー我が国における先端事例を通じてー …… 【会場：総合館・共北25】

企画：田口 真奈（京都大学高等教育研究開発推進センター）

話題提供：栗原 正仁（北海道大学大学院情報科学研究科）

宮本陽一郎（筑波大学人文社会科学研究科）

近田 政博（名古屋大学高等教育研究センター・大学院教育発達科学研究科）

出口 康夫（京都大学大学院文学研究科）

田林 千尋（京都大学大学院文学研究科）

指定討論：吉良 直（日本教育大学院大学学校教育研究科）

司 会：田口 真奈（京都大学高等教育研究開発推進センター）

3月18日(金)

ラウンドテーブル企画 13:30~16:00

理論と実践を行き来する大学教育における実践的研究……………【会場：総合館・共北26】

- 企 画：森 朋子（島根大学教育開発センター）
 細川 和仁（秋田大学教育推進総合センター）
 話題提供：細川 和仁（秋田大学教育推進総合センター）
 香川 順子（徳島大学大学開放実践センター）
 松田 岳士（山形大学教育企画室）
 城間 祥子（愛媛大学教育・学生支援機構）
 森 朋子（島根大学教育開発センター）
 指定討論：松下 佳代（京都大学高等教育研究開発推進センター）
 司 会：森 朋子（島根大学教育開発センター）
 細川 和仁（秋田大学教育推進総合センター）

学生とともに進めるFD……………【会場：総合館・共北27】

- 企 画：木野 茂（立命館大学共通教育推進機構）
 梅村 修（追手門学院大学国際教養学部）
 大崎 雄二（法政大学社会学部）
 服部 憲児（大阪大学大学教育実践センター）
 話題提供：人見 裕江（近大姫路大学看護学部）
 柿沼 義孝（獨協大学外国語学部）
 白鳥 成彦（嘉悦大学短期大学部）
 師 茂樹（花園大学文学部）
 関 真亮（明治国際医療大学鍼灸学部）
 岡田 佳子（長崎大学大学教育機能開発センター）
 司 会：木野 茂（立命館大学共通教育推進機構）

大学教育の研究・実践におけるゲーミング・シミュレーションの可能性

ー「クロスロード」を使ったFD研修ー……………【会場：総合館・共北28】

- 企 画：家島 明彦（島根大学教育開発センター）
 山田 剛史（島根大学教育開発センター）
 話題提供：吉川 肇子（慶応義塾大学商学部）
 中村美枝子（流通経済大学社会学部）
 家島 明彦（島根大学教育開発センター）
 司 会：家島 明彦（島根大学教育開発センター）
 ファシリテーター：山田 剛史（島根大学教育開発センター）

批判的思考教材の開発と実践 …………… 【会場：1号館・共311】

企 画：楠見 孝（京都大学教育学研究科）
話題提供：楠見 孝（京都大学教育学研究科）
 鈴木 宏昭（青山学院大学文学部）
 柏尾真津子（大阪人間科学大学人間科学部）
指定討論：道田 泰司（琉球大学教育学部）
司 会：子安 増生（京都大学教育学研究科）

協同・協働・協調の概念的関係と授業づくりの実際 …………… 【会場：1号館・共312】

企 画：安永 悟（久留米大学文学部）
話題提供：関田 一彦（創価大学教育学部）
 白水 始（中京大学情報理工学部）
 土屋衛治郎（中京大学大学院情報科学研究科）
 安永 悟（久留米大学文学部）
指定討論：杉江 修治（中京大学国際教養部）
司 会：関田 一彦（創価大学教育学部）

正課教育／学業とラーニング・ブリッジする課外活動の可能性

—早稲田大学ボランティアセンターの活動をデータで検証する— …… 【会場：1号館・共313】

企 画：溝上 慎一（京都大学高等教育研究開発推進センター）
話題提供：外川 隆（早稲田大学平山郁夫記念ボランティアセンター）
 岩井 雪乃（早稲田大学平山郁夫記念ボランティアセンター）
 渡邊由梨子（日本経済新聞社、卒業生）
 河井 亨（京都大学大学院教育学研究科）
指定討論：加藤 敏明（立命館大学共通教育推進機構キャリア教育センター）
 富田 宏治（関西学院大学法学部）
司 会：溝上 慎一（京都大学高等教育研究開発推進センター）

参加方法等について

◆**参加資格** 大学教育関係者、もしくは大学教育に関心のある方。

◆**参加費用** 発表論文集等の資料代として1,000円を当日受付にて申し受けます。

◆参加申込の方法

次のいずれかの方法で、**2011年2月4日(金)**までに、

1. 高等教育研究開発推進センターのHPの入力フォームから、オンラインで申し込む。
2. 18ページのFAX用フォームを使用し、FAXにて申し込む。
3. 高等教育研究開発推進センターのHPより、FAX用フォームをダウンロードし、FAXにて申し込む。

センターHP: <http://www.highedu.kyoto-u.ac.jp>

◆情報交換会について

初日(3月17日)午後5時半より、百周年時計台記念館2階・国際交流ホールにて、講師の先生方を囲んで情報交換会を開催いたします(会費5,000円)。

こちらも含めて、お申し込みをお待ちしております。

会費は当日、受付にてお支払いください。

◆お問い合わせ

京都大学教育推進部共通教育推進課総務グループ
730forum@mail2.adm.kyoto-u.ac.jp

(注) メールを送る場合には、件名に「大学教育研究フォーラムについての問い合わせ」とお書きください。

あさがお(ASAGAO) MLのご案内

高等教育研究開発推進センターでは、当センターに関する最新の情報をお知らせするための『あさがお(ASAGAO) ML』を設けています。

このMLでは、「公開研究会」「大学教育研究フォーラム」などのイベント開催や他の高等教育関連機関のシンポジウム、ワークショップの開催などの情報を提供しており、案内を自由に投稿することもできます。

*下記のURLから登録できます。

<http://kyoto-u.s-coop.net/asagao/>

FAX: 075-753-6691 宛先: 京都大学高等教育研究開発推進センター

第17回大学教育研究フォーラム 参加申込書 (FAX用)

所 属	
職 名	
(ふりがな) 氏 名	
連 絡 先 (自宅・勤務先)	〒
電 話 番 号	
メールアドレス	このメールアドレスを『あさがお (ASAGAO) ML』に 登録することを 希望する 希望しない 登録済み (○をつけてください)
情報交換会 3月17日(木) 17時半～ 会費 5,000円	参加する 参加しない (○をつけてください) (注) キャンセルの方は、2011年3月11日(金) 17時までにご連絡下さい。申し込みをされて 当日お越しにならない場合には、後日請求をさせていただきます。あらかじめご了承下さい。
備 考	

会場地図



主な交通機関

地下鉄烏丸線・今出川駅より

市バス 203 系統「銀閣寺道・錦林車庫」行「百万遍」下車
市バス 201 系統「百万遍・祇園」行「京大正門前」下車

京阪・出町柳駅より

市バス 201 系統「祇園・みふ」行「京大正門前」下車
又は、東へ徒歩約 20 分

阪急・河原町駅、京阪・祇園四条駅より

市バス 31 系統「熊野・岩倉」行「京大正門前」下車
市バス 201 系統「百万遍・祇園」行「京大正門前」下車

IV-3. 大学生研究フォーラム

1. 概要

大学全入時代といわれる最近の大学教育にとって、学生をどう育てるかということが喫緊の課題となっている。大学はもはや単なる知識を習得させるだけの場ではなく、知識社会、情報化社会、グローバル社会といった新たな社会状況で力強く活躍する人材育成の場ともなっている。そのために大学は、正課・正課外教育、キャリア教育などを有機的・包括的に考えていかなければならない。

大学生研究フォーラムは、高等教育における教授学習やファカルティ・ディベロップメントの実践的研究組織・京都大学高等教育研究開発推進センターと、大学生・大学院生への奨学制度で、社会に貢献する有用な人材育成を目指す（財）電通育英会が、現代大学生の姿を正確に理解し、かつ現代社会を力強く生きていける学生を育てるために開催するものである。

大学生研究フォーラムは、特別経費「大学教員教育研修のための相互研修型FD拠点形成」の国内連携事業の一つとして運営されている。本年度は第3回（名称は「大学生研究フォーラム2010」）を実施し、正課教育とキャリア教育とを総合する学生研修を年度テーマとした。280名の参加者を得た。

2010年度はプログラムの基本構成に関して、下記のように変更をおこなった。

- ・昼食の時間に情報交換会を設け、プログラムの冗長性を改善する
- ・講演を4名の講演者から1名の講演へと減ずる。その代わりに、事例報告を新たに設け、基調講演・講演・事例報告を総括するパネルディスカッションを提供する
- ・以上の結果、2日間開催から当初の1日開催へと戻す

2. プログラムの特徴

大学生研究フォーラム2010は、①基調講演、②講演、③事例報告、④パネルディスカッションから構成して実施された。各プログラムのねらい、本年度のテーマ、登壇者は下記のとおりである。

①基調講演 大学生の学習やキャリアに関する研究を一段階高い視野へと導いてくれるリーダー的役割を担った識者、あるいは論者に登壇していただき、今後の大学生研究の方向性やヴィジョンへの示唆をいただくことを目的としている。本年度は、高橋俊介氏（慶応義塾大学キャリアソースラボラトリー上席所員）に、「キャリアを切り開く能力とキャリア観」というテーマで基調講演をおこなってもらった。

②講演 大学生研究フォーラムの年度テーマと関連した内容・分野で活躍する識者に知見を提供してもらうことを目的としている。本年度は、正課教育とキャリア教育とを総合する学生研

修を年度テーマとしていたので、企業研修に詳しく、かつ大学教育センターにも所属して大学教育改革に携わっている中原淳氏（東京大学大学総合教育研究センター准教授）を講演者として招聘した。中原氏には、「企業人材教育の現在 - 大学には何ができるのか？」というテーマで講演をおこなってもらった。

③事例報告 新たに設けられたプログラムである。本年度は、正課教育とキャリア教育とを総合する学生研修を年度テーマとしていたので、それにもとづく下記3者から事例報告をおこなった。

- ・溝上慎一（京都大学高等教育研究開発推進センター 准教授）
「学生研修という考え方—— 学生調査によるアセスメントと大学生キャリアセミナー」
- ・番田清美（東京学芸大学学生キャリア支援センター 特任准教授）
「学芸カフェテリアによる学修・キャリア支援」
- ・梶原昭博（北九州市立大学国際環境工学部 教授/学部長）
「実践キャリア教育をふまえた工科系学生のための教育・授業改善」

④パネルディスカッション 朝からの基調講演・講演・事例報告をすべて受けて、大学教育改革、キャリア教育の専門の識者に自由に討論してもらうことを目的としている。一日の振り返り、総括となることも目的としている。パネリストとして以下の3氏を招聘した。なお、高橋氏は基調講演に続いての登壇であった。

- ・高橋 俊介（慶応義塾大学キャリアソースラボラトリー 上席所員）
- ・渡辺 三枝子（立教大学大学院ビジネスデザイン研究科 特任教授）
- ・加藤 敏明（立命館大学共通教育推進機構キャリア教育センター 教授/センター長）

3. 大学生研究フォーラム 2010 を振り返って

本年度は、上述の通り、プログラムの基本構成を大幅に変更し、全体のプログラムの有機的連関をはかったことが大きな成果である。最後のパネリスト（高橋、渡辺、加藤）に、どのような観点で議論をしてもらうかの事前調整がもう少し必要だったと反省も残るが、結果的に、彼らはフォーラムの趣旨、年度テーマをうまく理解してくれ、関係者にとっても有意義な議論をおこなってくれた。参加者の満足度も非常に高いものであった。

事例報告では、正課教育とキャリア教育とを接続する具体的な実践事例として、キャリアセンター等が主催する正課外のキャリアセミナーが報告されたが（溝上、番田）、学部組織の立場（梶原）からは、学部の正課プログラムとして提供するインターンシップなどのキャリア支援が有効だとも報告された。また、パネルディスカッション（高橋、渡辺、加藤）では、一般教員がもっと学生の学びやキャリアを育てる自覚を高めるためのFD（ファカルティ・ディベロップメント）が必要だという議論もなされた。

年度テーマを考えている2009年時にはまだ世に出てきていなかったが、今から振り返ると、時を同じくして、中教審部会から大学設置基準の改正に向けた、いわゆる正課教育における「キャリアガイダンス」の必要性が提示された（『大学における社会的・職業的自立に関する指導等

(キャリアガイダンス)の実施について(審議経過概要)』2009年12月15日)。今後は、このような大学設置基準の改正を受けて、ますます正課教育とキャリア教育との接続が議論されることになるだろうと予想される。手前味噌ではあるが、このフォーラムではそうしたことにつながる議論を先取っておこなっていると感じられる。今後ともさらに、正課教育とキャリア教育との接続について、ひいてはそこから生まれる学生の学びと成長について考えていきたい。

4. 付録資料

『大学生研究フォーラム2010 開催スケジュール』(web上で公開、下記参照)
(<http://www.dentsu-ikueikai.or.jp/forum/>)

(溝上 慎一)



→ 大学生研究フォーラム
2010を開催します

→ 講演・議論の内容紹介

開催記録

→ 大学生研究フォーラム
2009

→ 講演・議論の内容紹介

→ 大学生研究フォーラム
2008

→ 講演・議論の内容紹介

京都大学高等教育研究開発推進センター/財団法人 電通育英会共催

大学生研究フォーラム2010を開催しました

大学生研究フォーラム2010は無事終了いたしました。

・次回開催予定のフォーラム2011のご案内は、3月頃を予定しています。

↓ 大学生研究フォーラム2010 開催要項

↓ 登壇者のプロフィール



大学での勉強を、学生の成長につなげる

大学全入時代といわれる最近の大学教育にとって、学生をどう育てるかということが喫緊の課題となっています。大学はもはや単なる知識を習得させるだけの場ではなく、知識社会、情報化社会、グローバル社会といった新たな社会状況で力強く生きていけるための人材育成の場ともなってきました。そのためにも、正課・正課外教育、キャリア教育など有機連携的・包括的な視点のもと、大学はいかに学生を育てるかということを考えなければなりません。

高等教育における教授学習やファカルティ・ディベロップメントの実践的研究組織・京都大学高等教育研究開発推進センターと、大学生・大学院生への奨学制度で、社会に貢献する有用な人材育成を目指す(財)電通育英会は、現代大学生の姿を正確に理解し、かつ現代社会を力強く生きていける学生を育てるために正課・正課外教育、キャリア教育に求められている課題は何かを包括的に検討するべく、大学生研究フォーラムを開催いたします。

大学、研究機関などで、大学教育についての研究で活躍されておられる先生方に加え、高校で進路指導に携わっておられる教諭、さらにこのテーマに関心ある学生にも参加いただき、これからの「大学生」について幅広い観点から議論を深めていきます。

多くの皆様にご参加いただきたく、ここにご案内させていただきます。

2008年4月

京都大学高等教育研究開発推進センター長 田中 每実
財団法人 電通育英会 理事長 松本 宏

大学生研究フォーラム2010開催要項

開催日: 2010年8月2日(月)
会場: 京都大学百周年時計台記念館 1階・大ホール、2階・国際交流ホール

開催スケジュール

9:30受付開始 10:30開会

10:30～11:30 講演(1F大ホール)

「企業人材教育の現在－大学には何ができるのか？」
中原 淳(東京大学 大学総合教育センター 准教授)

11:45～12:40 昼食会(2F国際交流ホール)

接拶: 田中 每実(京都大学 高等教育研究開発推進センター長)
接拶: 松本 宏(電通育英会 理事長)

12:50～14:00 基調講演(1F大ホール)

「キャリアを切り開く能力とキャリア観」
高橋 俊介(慶応義塾大学 キャリアソースラボラトリー 上席所員)

14:10～17:30 事例報告・パネルディスカッション(1F大ホール)

「正課教育とキャリア教育を総合して学生の学びと成長を考える」

司会: 半澤 礼之氏(京都大学 高等教育研究開発推進センター 助教)

14:10～14:20 趣旨説明とこれまでの継承課題
溝上 慎一

14:20～16:05 事例報告 3組(教授+学生)×35分間=105分
「学生研修という考え方－学生調査によるアセスメントと大学生キャリアセミナー」
溝上 慎一
「学芸カフェテリアによる学修・キャリア支援」
番田 清美(東京学芸大学 学生キャリア支援センター 特任准教授)
「実践キャリア教育をふまえた工科系学生のための教育・授業改善」
梶原 昭博(北九州市立大学 国際環境工学部 教授 学部長)

16:20～17:30 パネルディスカッション
司会: 溝上 慎一
高橋 俊介(慶応義塾大学 キャリアソースラボラトリー 上席所員)
渡辺 三枝子(立教大学大学院 ビジネスデザイン研究科 特任教授)
加藤 敏明(立命館大学 共通教育推進機構キャリア教育センター 教授/センター長)

17:30 閉会挨拶(1F大ホール)

司会: 溝上 慎一

登壇者のプロフィール(登壇順)

**満上 慎一(みぞかみしんいち)氏**

京都大学 高等教育研究開発推進センター 准教授

1970年生まれ。1996年より京都大学高等教育教授システム開発センター助手、2003年より現職。自己形成論、青年心理学、学生の学びを中心としたFDと大学生研究を行っている。2010年から、大学生がキャリアを形成する上で、どのような大学生活を過ごすべきかをテーマとした「大学生キャリアセミナー京都」を主催している。

講演・議論の内容紹介:

- [主旨説明 満上慎一氏](#)
- [事例報告 満上慎一氏](#)
- [パネルディスカッション](#)

**高橋 俊介(たかはししゅんすけ)氏**

慶応義塾大学 キャリアソースラボラトリー 上席所員

1954年生まれ。東京大学工学部卒業、プリンストン大学工学部修士課程修了。日本国有鉄道、マッキンゼーアンドカンパニーを経て、ワトソンワイアット代表取締役社長。1997年より個人事務所ピープルファクター・コンサルティング代表。2000年から慶応義塾大学政策・メディア研究科教授、2010年4月より現職。

講演・議論の内容紹介:

- [基調講演 高橋俊介氏](#)
- [パネルディスカッション](#)

**渡辺 三枝子(わたなべ みえこ)氏**

立教大学大学院ビジネスデザイン研究科 特任教授 筑波大学キャリア支援室シニアアドバイザー

上智大学卒。ポストカレッジ大学修士課程、ペンシルバニア州立大学大学院博士課程修了(カウンセリング心理学(Ph.D.))。筑波大学大学院教授を経て現職。近著に『女性プロフェッショナルから学ぶキャリア形成』(ナカニシヤ 2009)、『キャリア教育: 自立していく子どもたち』(東京書籍 2008)など。

講演・議論の内容紹介:

- [パネルディスカッション](#)

**中原 淳(なかはらじゅん)氏**

東京大学 総合教育研究センター / 東京大学大学院 学際情報学府 准教授

北海道旭川市生まれ。東京大学教育学部、大阪大学大学院人間科学研究科を経て、文部科学省メディア教育開発センター助手、米国・マサチューセッツ工科大学客員研究員、東京大学総合教育研究センター講師、2006年より現職。2003年、大阪大学より博士号授与。「大人の学びを科学する」をテーマに、企業・組織に置ける人々の学習・成長・コミュニケーションについて研究している。-->

講演・議論の内容紹介:

- [講演 中原淳氏](#)

**加藤 敏明(かとう としあき)氏**

立命館大学 共通教育推進機構 キャリア教育センター 教授・センター長

立命館大学産業社会学部卒業。共同通信社、日本経済新聞社を経て、1997年札幌国際大学専任講師、1998年助教授、2003年9月より現職。専攻は労働経済雇用論、ライフスタイル論。2003年に立命館大学でインターシップ基本概念を策定、2005年に日本型コーオプ教育プログラム「コーオプ演習」を開発するなどインターシップの健全な普及を提言し続けている。-->

講演・議論の内容紹介:

→  パネルディスカッション**番田 清美(ばんた きよみ)氏**

東京学芸大学 学生キャリア支援センター 特任准教授

大手企業役員秘書、英語教室主催、桜美林高等学校英語講師を経て、2007年11月東京学芸大学学生キャリア支援センター特任講師。2008年5月より現職。文部科学省学生支援GP平成19年度「新たな社会的ニーズに対応した学生支援プログラム」における東京学芸大学「学芸カフェテリアによる学修・キャリア支援」プロジェクトに従事。

講演・議論の内容紹介:

→  事例報告 番田清美氏**梶原 昭博(かじわら あきひろ)氏**

北九州市立大学 国際環境工学部 教授/学部長

慶応義塾大学大学院博士課程修了。工学博士。1981年～1997年通商産業省およびカールトン大学、防衛庁、1997年筑波大学工学部教授、2001年北九州市立大学国際環境工学部教授、2008年同学部長および環境工学研究科長、現在に至る。専門的な分野は情報通信工学、通信ネットワーク、レーダセンサ、マイクロ波ミリ波。これまでに移動通信や通信ネットワーク、電波伝搬、レーダセンサなどの研究に従事。

講演・議論の内容紹介:

→  事例報告 梶原昭博氏**問い合わせ先**

京都大学高等教育研究開発推進センター 溝上研究室

〒606-8501 京都市左京区吉田二本松町

TEL: 075-753-3047

FAX: 075-753-3045

<http://www.highedu.kyoto-u.ac.jp/>

(財)電通育英会 事務局

〒104-0061 東京都中央区銀座7-4-17 電通銀座ビル4F

TEL: 03-3575-1386

FAX: 03-3575-1577

→ このページの先頭へもどる

IV-4. FDネットワーク代表者会議(JFDN)

—公開シンポジウムおよび第3回会合について—

1. はじめに

2010年9月7日(火)に京都大学芝蘭会館稲盛ホールにて公開シンポジウム「FDネットワークの展開と大学教育改革の方向性を問う」が開催された。さらに翌8日(水)には、同じく京都大学芝蘭会館の山内ホールにてFDネットワーク代表者会議(Japan Faculty Development Network: JFDN)の第3回会合が開催された。これらの詳細については、別冊の京都大学高等教育叢書 30『FDネットワークの展開と大学教育改革の方向性を問う』に譲ることとし、ここでは公開シンポジウムおよびFDネットワーク代表者会議(JFDN)第3回会合の概要について紹介したい。

1-1. 公開シンポジウム「FDネットワークの展開と大学教育改革の方向性を問う」

大学のFDに関わる状況は、ここ数年の間に大きく動いてきている。特に、2007年度に大学院が、2008年度に大学をはじめとするその他の高等教育機関において、大学設置基準によってFDが義務化されるということは、大学教育に大きなインパクトを及ぼした。

しかし、この流れのなかで、大学評価などのために定型的に行われるFD活動が顕在化するということもあり、2008年の中教審答申『学士課程教育の構築に向けて』には、「実質的なFD」という表現によって、その実現に向けてさまざまな試みへの期待が盛り込まれた。

その一つが、大学間FDネットワークであり、実際に、2009年8月には「教育関係共同利用拠点」に関わる規程が告示された。それを受けて、2010年3月に第一次、6月に第二次のFDに関わる拠点認定が発表され、「教職員の組織的な研修等の実施機関」として7大学が動き始めている。

拠点以外にも、各地域でFDに関わる大学間ネットワークが形成され、活動が進められてきている。

しかし、FDネットワークはまだ動き始めたばかりであり、リソース、内容・方法、参加大学の規模などの点で、それぞれ多様なローカリティをもつなかで、多くの課題を抱えながら手探り状態で取り組んできている段階にある。

そこで、本シンポジウムでは、高等教育研究の第一人者の先生方をお招きし、FDネットワークの展開と大学教育改革の方向性についてご意見を伺い、それを踏まえたディスカッションを通して、今後のFDネットワークのあり方とわが国の大学教育の方向性を探っていくことが企図された。

まず、松本紘京都大学総長による開会挨拶の後、田中每実京都大学高等教育研究開発推進センター長による基調報告「相互研修型FD 共同利用拠点の仕事」によって、共同利用拠点の一つのチャレンジが紹介された。

それを踏まえて、パネル報告として、天野郁夫東京大学名誉教授、舘昭桜美林大学大学院アドミニストレーション研究科長、羽田貴史東北大学高等教育開発推進センター長、寺崎昌男立教大学本部調査役、絹川正吉新潟大学理事、小松親次郎文部科学省大臣官房審議官の、6名の高等教育の牽引者ともいべき方々からご意見をいただいた。

さらに、基調報告者、パネル報告者が壇上に並んで、パネルディスカッション、および、フロアも含めた質疑応答が行われた。

9月とはいえ、記録的な猛暑の続く平日にも関わらず、関西地区内外から合計135名の参加者があり、終了後の情報交換会も、多くの参加者が一層の交流を深める機会となり、盛会のうちに終了することができた。

1-2. FDネットワーク代表者会議（JFDN）第3回会合

公開シンポジウム翌日の9月8日（水）には、半日をかけて、FDネットワーク代表者会議（JFDN）の第3回会合が、同場所芝蘭会館山内ホールにて開催された。北は北海道から、南は九州まで、全国17のFDネットワークの代表が参集して、それぞれの活動の現状と課題について報告し合った。その後、両日フル参加いただいた、高橋浩太郎文部科学省高等教育局大学振興課大学改革推進室学務係長よりコメントをいただき、それを皮切りに、今後のFDネットワークについての議論が行われた。

JFDNという愛称で呼ばれているこのFDネットワーク代表者会議を、今後どのように発展させていくか、FDネットワークの多様性をどう活かしていくか、それを支える人的体制をどう確保していくか、FD・FDネットワーク等の評価をどのようにしていくべきか、効率化や効果を図るためのFD活動の標準化の道はないのか、等々、まだまだ課題山積の段階である。しかし、そのようなFDに関わる重要な課題が次々に飛び出し、FDネットワークのネットワークとして新たな創発がもたらされる可能性も感じさせる議論となった。

2. 参加者（敬称略）

2-1. 公開シンポジウム「FDネットワークの展開と大学教育改革の方向性を問う」

基調報告者

田中 每実（京都大学 高等教育研究開発推進センター センター長／教授）

パネル報告者

絹川 正吉（新潟大学 理事）

寺崎 昌男（立教学院 本部調査役／東京大学 名誉教授）

天野 郁夫（東京大学 名誉教授）

館 昭 (桜美林大学大学院大学アドミニストレーション研究科 教授)
羽田 貴史 (東北大学高等教育開発推進センター 大学教育支援センター長/教授)
小松 親次郎 (文部科学省 大臣官房 審議官)

2-2. FDネットワーク代表者会議 (JFDN) 第3回会合

北海道地区FD・SD推進協議会

細川 敏幸 (北海道大学 高等教育機能開発総合センター 教授)

いわて高等教育コンソーシアム

後藤 尚人 (岩手大学 大学教育総合センター 教育改善部門長/教授)

国際連携を活用した大学教育力開発の支援拠点

関内 隆 (東北大学 高等教育開発推進センター 副センター長/教授)

東日本地区大学間FDネットワーク・つばさ

小田 隆治 (山形大学 高等教育研究企画センター 教授)

障害者高等教育拠点

飯塚 潤一 (筑波技術大学 障害者高等教育研究支援センター 障害者支援研究部長/教授)

看護学教育研究共同利用拠点

松田 直正 (千葉大学大学院 看護学研究科附属看護実践研究指導センター 特任助教)

文部科学省高等教育局

高橋 浩太郎 (文部科学省 高等教育局 大学振興課 大学改革推進室 学務係長)

日本高等教育開発協会

(Japan Association for Educational Development in Higher Education: JAED)

川島 啓二 (国立教育政策研究所 高等教育研究部 総括研究官)

大学コンソーシアム石川

青野 透 (金沢大学 大学教育開発・支援センター 教授)

林 透 (北陸先端科学技術大学院大学大学院教育イニシアティブセンター 特任助教)

福井県学習コミュニティ推進協議会 (フレックス)

坪川 武弘 (福井工業高等専門学校 教授)

山川 修 (福井県立大学 学術教養センター 教授)

藤原 正敏 (仁愛女子短期大学 教授)

FD・SD教育改善支援拠点

夏目 達也 (名古屋大学 高等教育研究センター 教授)

医学教育共同利用拠点

加藤 智美 (岐阜大学 医学部 医学教育開発研究センター 講師)

全国私立大学FD連携フォーラム

井上 史子 (立命館大学 教育開発推進機構 講師)

大学コンソーシアム京都

(地域内大学連携によるFDの包括研究と共通プログラム開発・組織的運用システムの確立)

原 清治 (佛教大学 教育学部 教授/学生支援・戦略的大学連携 GP 推進室 室長)

山陰地区FD連絡協議会

山田 剛史 (島根大学 教育開発センター 副センター長/准教授)

四国地区教職員能力開発ネットワーク (SPOD) / 教職員能力開発拠点

佐藤 浩章 (愛媛大学 教育・学生支援機構 教育企画室 准教授)

九州地域大学教育改善FD・SDネットワーク: Q-Links

田中 岳 (九州大学 教育改革企画支援室 准教授)

相互研修型FD共同利用拠点

田中 每実 (京都大学 高等教育研究開発推進センター センター長/教授)

大塚 雄作 (同 教授)

松下 佳代 (同 教授)

溝上 慎一 (同 准教授)

田口 真奈 (同 准教授)

酒井 博之 (同 特定准教授)

及川 恵 (同 特定准教授)

石川 裕之 (同 特定助教)

半澤 礼之 (同 特定助教)



FDネットワーク代表者会議 (JFDN) 第3回会合

3. プログラム

3-1. 公開シンポジウム「FDネットワークの展開と大学教育改革の方向性を問う」

日程	時間	プログラム	内容
9月7日 (火)	13:00	受付開始	1F エントランスホール
	13:30 ～ 13:45	開会挨拶 趣旨説明	開会挨拶：松本 紘（京都大学 総長） 趣旨説明：大塚 雄作（京都大学高等教育研究開発推進センター教授）
	13:45 ～ 17:30	公開シンポジウム 「FD ネットワーク の展開と大学教育改 革の方向性を問う」	I. 基調報告「相互研修型 FD 共同利用拠点の仕事」 13:45～14:15 基調報告者 田中 每実（京都大学高等教育研究開発推進センター センター長／教授） II. パネル報告 14:20～16:20 パネル報告者 絹川 正吉（新潟大学 理事） 寺崎 昌男（立教学院 本部調査役／東京大学 名誉教授） 天野 郁夫（東京大学 名誉教授） 舘 昭（桜美林大学大学院大学アドミニストレーション研究科 教授） 羽田 貴史（東北大学高等教育開発推進センター 大学教育支援センター長／教授） 小松 親次郎（文部科学省大臣官房 審議官） III. パネルディスカッション 16:30～17:30
	17:45 ～ 19:45	フリーディスカッション・ 情報交換会	芝蘭会館 山内ホール

3-2. FDネットワーク代表者会議（JFDN）第3回会合

日程	時間	プログラム	内容
9月8日 (水)	9:20	集合	集合場所：芝蘭会館 山内ホール
	9:30 ～ 9:40	趣旨説明	大塚 雄作（京都大学）
	9:40 ～ 11:30	FD ネットワー クおよび教育 関係共同利用 拠点の現状と 展望 I	<p>1. 細川 敏幸（北海道大学）9:40～9:50 「北海道地区 FD・SD 推進協議会の活動」</p> <p>2. 後藤 尚人（岩手大学）9:50～10:00 「いわて高等教育コンソーシアムにおける FD 活動 2010」</p> <p>3. 関内 隆（東北大学）10:00～10:10 「国際連携を活用した大学教育力開発の支援拠点」</p> <p>4. 小田 隆治（山形大学）10:10～10:20 「FD ネットワーク “つばさ” の現在」</p> <p>5. 青野 透（金沢大学）10:20～10:30 「大学コンソーシアム石川 FD・SD 活動の展開」</p> <p>6. 飯塚 潤一（筑波技術大学）10:40～10:50 「障害学生支援について：障害者高等教育拠点として」</p> <p>7. 松田 直正（千葉大学）10:50～11:00 「看護学教育における FD ネットワークおよび看護学教 育研究共同利用拠点の現状と展望」</p> <p>8. 川島 啓二（国立教育政策研究所）11:00～11:10 「大学教育改革を進める知識・技能、人、理念：日本 高等教育開発協会(JAED)が目指すもの」</p> <p>9. 坪川 武弘（福井工業高等専門学校）11:10～11:20 「フレックスでの連携した FD 活動の推進」</p> <p>10. 夏目 達也（名古屋大学）11:20～11:30 「『FD・SD 教育改善支援拠点』のめざすもの」</p>

9月8日 (水)	12:00 ～ 13:00	フリーディス カッション・ 昼食	
	13:00 ～ 14:00	FD ネットワー クおよび教育 関係共同利用 拠点の現状と 展望Ⅱ	<p>11. 原 清治 (佛教大学) 13:00～13:10 「地域内大学連携によるFDの包括研究と共同プログラム開発・組織的運営システムの確立」</p> <p>12. 加藤 智美 (岐阜大学) 13:10～13:20 「医学教育共同利用拠点としての現状と展望」</p> <p>13. 井上 史子 (立命館大学) 13:20～13:30 「全国私立大学FD連携フォーラム(JPFF)の活動展開と今後の課題」</p> <p>14. 山田 剛史 (島根大学) 13:30～13:40 「山陰地域における大学間連携の取組」</p> <p>15. 佐藤 浩章 (愛媛大学) 13:40～13:50 「全国の高等教育機関の組織力向上のための教職員能力開発拠点：四国地区大学教職員能力ネットワーク(SPOD)との連携事業」</p> <p>16. 田中 岳 (九州大学) 13:50～14:00 「かたらしてえ Q-Links 2010」</p>
	14:30 ～ 15:30	ディスカッ ション	コメント：高橋 浩太郎 (文部科学省) 司会：大塚 雄作 (京都大学)
	15:30	解散	

(大塚 雄作、石川 裕之、及川 恵)

IV-5. 若手 FD 研究者ネットワーク (JFDN Jr.)

—2010 年度の活動報告と今後の展開について—

1. はじめに

2008 年度に「FD 推進のための情報交換、実践研究、および情報発信をおこなうことを目的として、FD に関わる若手研究者を組織化し、問題点や成功事例を共有する」ことを目的として設立された若手 FD 研究者ネットワーク (Japan Faculty Development Network for Junior Researchers : JFDN Jr.) も 3 年目を迎えた。JFDN Jr. は、横の連携を通じたボトムアップによって新たな理念やモデルを構築することを企図する同僚的性格と、単なる実務家の集団ではなく自らを研究者と規定するメンバーによって構成されている点を特徴としている (石川、2009)。2010 年度は合宿研究会、メーリングリスト ML による情報交換、メールマガジンの刊行、そして学会発表を主な活動として行ってきた。これらの活動は、横の連携 (合宿研究会、メーリングリストによる情報交換、メールマガジンの刊行) と研究者集団としてのネットワーク (学会発表) という JFDN Jr. の特徴が反映されたものであるといえる。現在、メーリングリストの登録者は 71 名となっており、北は北海道、南は沖縄まで、また、学部生から大学教員、事務職員と幅広い層が参加していることも JFDN Jr. の特徴であるといえるだろう。

2. 2010 年度の活動報告

2-1. 第 3 回合宿研究会 (2010 年 9 月 7 日・8 日)

2010 年 9 月 7 日・8 日の両日、京都大学にて合宿研究会が行われた。初日となった 7 日は、京都大学高等教育研究開発推進センター主催の公開シンポジウム「FD ネットワークの展開と大学教育改革の方向性を問う」に参加し、二日目の 8 日は、研究会参加者によるワークショップを行った。参加者は 18 大学 22 名であった。

2-1-1. 合宿研究会プログラム

日程	時間	プログラム	備考
9 月 7 日 (火)	12:15 ～ 13:10	セッション 1	本会合の趣旨について (5 分) 司会：京都大学高等教育研究開発推進センター 田口 真奈 ネットワーク代表挨拶 (5 分) 代表：京都外国語大学マルチメディア教育研究センター 村上 正行 参加者による自己紹介 (25 分)

			(各自1分程度) 「FD との関わりと研究のバックグラウンド」 活動報告 (15分) 報告者：京都大学高等教育研究開発推進センター 田口 真奈・半澤 礼之 合宿プログラムの確認 (5分)
20分間	休憩・移動		京都大学芝蘭会館 稲盛ホール・山内ホール
13:30 ～ 17:30	セッション2		公開シンポジウム「FD ネットワークの展開と大学教育 改革の方向性を問う」 13:30～13:45 開会挨拶：松本 紘（京都大学 総長） 趣旨説明：大塚 雄作（京都大学高等教育研究開発推 進センター 教授） 13:45～14:15 I.基調報告「相互研修型FD 共同利用拠点の仕事」 田中 每実（京都大学高等教育研究開発推進センター センター長／教授） 〔休憩5分〕 14:20～16:20 II.パネル報告 絹川 正吉（新潟大学 理事） 寺崎 昌男（立教大学 本部調査役／東京大学 名誉教授） 天野 郁夫（東京大学 名誉教授） 館 昭（桜美林大学大学院大学アドミニストレ ーション研究科 教授） 羽田 貴史（東北大学高等教育開発推進センター 大 学教育支援センター長／教授） 小松 親次郎（文部科学省大臣官房 審議官） 〔休憩10分〕 III.パネルディスカッション
15分間	休憩		
17:45～ 19:45	情報交換会		芝蘭会館 山内ホール
20:00～	懇親会		

9月8日 (水)	9:30 ～ 10:40	セッション3	本日の流れの説明 (5分) ワークショップ テーマ:「所属組織・担当業務の現状と課題」 司会: 村上 正行 ・説明 (5分) ・グループディスカッション (40分) ・グループ発表 (20分)
	20分間	休憩	
	11:00 ～ 12:20	セッション4	ワークショップ テーマ:「公開シンポジウムの振り返り」 司会: 村上 正行 ・説明 (5分) ・グループディスカッション (55分) ・グループ発表 (20分)
	12:20 ～ 13:10	セッション5	ランチミーティング テーマ:「FDと関わる:展望と課題」 司会: 田口 真奈
	10分間	休憩	
	13:20 ～ 14:40	セッション6	ワークショップ テーマ:「学問領域別教育の質保証について考える」 司会: 山形大学高等教育研究企画センター 杉原 真晃 ・説明 (5分) ・ミニレクチャー (10分) 京都大学高等教育研究開発推進センター 田口 真奈 ・グループディスカッション (45分) ・グループ発表 (20分)
	14:40 ～ 15:00	セッション7	今後の活動計画について (10分) 杉原 真晃 閉会の挨拶 (5分) 村上 正行 振り返りシート記入 (5分)
	15:00	後片付・解散	(会場にて記念撮影をいたします)

2-1-2. 合宿研究会振り返りシート

合宿研究会終了時に、参加者に対してアンケート（振り返りシート）をおこなった結果、17名から回答が得られた。アンケートは、合宿研究会に対する満足度（5件法）、合宿研究会のよかった点（選択式）、改善点（自由記述）、今後 JFDN Jr.に期待すること（自由記述）、意見・感想（自由記述）を問う質問から構成されていた。その結果を以下に示す。

<合宿研究会に対する満足度>

合宿研究会の満足度を、「a.全体の総合評価」「b.公開シンポジウム」「c.ワークショップ：所属組織・担当業務の現状と課題」「d.ワークショップ：公開シンポジウムの振り返り」「e.ワークショップ：学問領域別教育の質保証について考える」「f.懇親会」「g.その他（自由記述）」に対して5段階評定（大変満足している～全く満足していない）で尋ねた。大変満足しているに5点、全く満足していないに1点の数字を割り当てて各項目の平均値を算出したものを示したのが図1である。

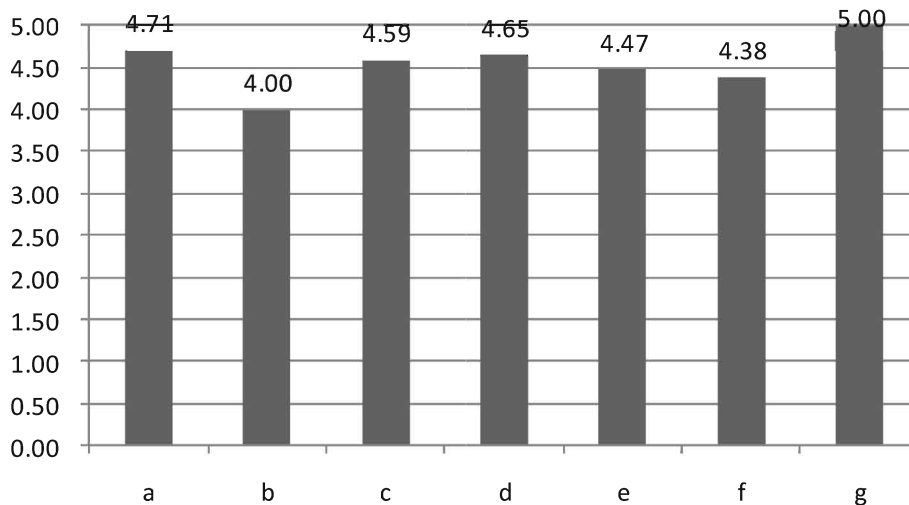


図 1.合宿研究会に対する満足度

「g.その他」の項目には「ランチョンミーティング」「癒し」といった回答が得られた。すべての平均点において得点が4.00を超えており、高い満足度が得られていた。

<合宿研究会全体のよかった点>

合宿研究会のよかった点について、表1に示した1~7の7項目とその他（自由記述）2項目の合計9項目で尋ねた。その際、各項目が上記a~gのいずれの活動において感じられたのかについて回答をしてもらった（複数回答可）。その回答を集計したのが表1である。その他と回答した者はいなかった。全体としては、「c.所属組織、担当業務の現状と課題」を回答した参加者が多く、組織を超えたネットワークである JFDN Jr.が、参加者にとって自分自身の組織や業務の問題を語り合う場になっているということが伺える。

表 1.合宿研究会の良かった点

	a.全体の総合評価	b.公開シンポジウム	c.所属組織、担当業務の現状と課題	d.公開シンポジウムの振り返り	e.学問領域別教育の質保証について考える	f.懇親会
1.若手メンバー同士の交流がもて、親睦が深まったこと	1	0	11	9	8	7
2.FD大学教育改善等の業務に関する情報交換ができたこと	1	1	15	8	9	0
3.日常業務についての課題の共有、解決策の獲得等ができたこと	1	1	12	6	6	2
4.日常業務を「研究」という観点からとらえることができたこと	0	2	4	3	3	0
5.研究者マインドが刺激されたこと	1	1	3	3	3	2
6.日常業務に関する相対化、振り返りができたこと	1	3	11	7	6	3
7.特になし	0	0	0	0	0	0

<合宿研究会の改善点>

今回の合宿研究会の改善点について自由記述で尋ねたところ、表 2 のような回答が得られた。

【参加者間のコミュニケーション】【ワークショップの議論】などが改善点としてあげられた。

表 2.合宿研究会の改善点

自由記述
【参加者間のコミュニケーション】
ワークでしゃべれなかった人がいたので、ちょっと残念でした。
特にありません。が、ワークショップが初日だと 2 日間まるまるいろいろな方と話せたかなと思います。
【ワークショップでの議論】
自由に話せる反面、全体での成果や目標が何なのかがよくわからないと感じます。でもこちらの特徴の自由さも大事だと思いますので、良し悪しですね。
学問別教育の質保証について、正直取っつきにくかった。資料の読み込みなどあれば、事前に指示いただくとよいのでは。共通のテーマを複数用意して分科会のような形態でもよいのでは。
シンポジウムを受けた議論にもう少し焦点化して頂きたかったです。
（「話し足りなさ」を重視されているということかもしれませんが）、あるテーマについて議論したら、さらにそれを発展させて議論するような（ワールドカフェでしょうか）、そういう形だともう少し深められたかなと感じました。
ワークショップの時間がもう少しあると議論が深まるか。
【その他】
特にないんですが、しいて言えば・・・費用をとってもよかったと思う。おやつがあればうれしかった（自分で次は持ってきます）。KYOWA のライジングシートなどに議論のプロセスを可視化できるようなこともあってもよかったと思いました。ファシグラミたいな人がいたり。でもそんなことしたら、大変か（笑）
参加者をもっと多様になること（難しいとは思いますが・・・）。シンポジウムは個人的にはよかったが、若手全体にとってはやや実践的でなかったかも（という話を複数聞いた）。
セッション毎にテーマ以外の変化（流れ等）が欲しい。

<合宿研究会の良かった点>

今回の合宿研究会の良かった点について自由記述で尋ねたところ、表3のような回答が得られた。【参加者間のコミュニケーション】【情報共有・獲得】【プログラム】が良かった点としてあげられた。

表3.合宿研究会の良かった点

自由記述
【参加者間のコミュニケーション】
自身の振り返りができたこと、今の政策の動向、他大学の情報共有ができたこと。癒されたこと。
自由に話すことができたこと。様々な立場の年齢の近い方とじっくり話し合う機会がもてるのは刺激になりますし勉強になります。いつもありがとうございます。
飲み会がよかった。参加されている先生方が様々な立場でありながら。メタな視点で議論・情報交換ができた。
各大学の現状と課題が理解できた点や交流することができた点
いろいろな方と知り合え、情報も得られたこと。今後の仕事の上でのヒントを得られたこと。
業務の方向性(他大学と比較して、振り返り)について知見を得ることができた。人的ネットワークの形成。
いろいろなバックグラウンドの方々とお話できたこと。同時に、研究領域上のバックグラウンドは結構偏っていることも知ることができましたが。
たくさんの方々と交流できた点がとてもよかったです。「質保証を考える」のような勉強会があるのもよかったです。次回も期待しています。
①大学教育に熱意を持っている若い先生方の集まりですから、すごく話しやすいと思います。②シンポジウムもあり、ミニレクチャーもありますから、discussionのbaseがあって、すごくいいと思います。
同じようなお立場の先生方のご意見が聞けてとても勉強になりました。特に私はまだできてまもないセンターにおりますのでたくさんヒントをいただけて、本当にありがたく思っております。いつかは私の方から情報提供ができるくらいのレベルに達したいのですが…。任期がきれるまでにベストをつくそうと思います。
【情報共有・獲得】
他大学の取り組みを色々と知れたこと。
分野別質保証について勉強になりました。各大学の事情も知ることができました。
内容的に最新動向(分野別質保証)も取り入れて議論したことが良かった。新しすぎて議論しにくい面もあるが、担当者としては知っておくべき、認識を深めておくべきことだと思った。
【プログラム】
課題が明確であった。プログラムが充実していた(構造化されていた)。
公開シンポジウムが組み込まれておりFD・大教センターそのものを相対化する契機になったこと。
ワークショップの流れ(現状→シンポ→質保証)が良かったこと。
セッション6でミニレクチャー→ディスカッションという流れだったところ。

<今後、JFDN Jr.に期待すること>

今後、本ネットワークに期待することについて自由記述で尋ねたところ、以下のような回答が得られた。【共同研究】【活動の継続・発展】などが今後 JFDN Jr.に期待することとして得られた。

表 4.JFDN Jr.に期待すること

自由記述
【共同研究】
せっかくのご縁を活かして何か共同研究ができればいいのですが。
FD 研究の連携についても、できることから少しずつやってみたい。
参加者の間でも研究にしていけるようなことがあればよいのかと思った。話したことを action plan にしたり。それはネットワークコアメンバーの期待というわけではなく、参加者同志がやっていければよいことかと思います。
情報交換に加えて FD についての共同研究もできるとよいと思います。
情報交換の場。全員が話し合いに加われる。現状の通りの風通しの良さの維持。
【活動の継続・発展】
ずっと消えずに続いてほしいです。
この活動を続けて下さい。
“ゆるさ”がなくならないで欲しいと思います。
ネットワークで行っていること等、自体の情報発信
ML の活発化。
【その他】
このネットワークに所属していて出世などで抜けた先生がいらっしゃればご意見を是非きいてみたいです。
まだ院生ですが、現場の話をもっと聞きたいです。たくさんの若い方々が集まるように、互いに助け合いながら、大学教育に貢献できたらいいと思います。
「FD 担当者ガイド」みたいなものを作ってほしい。学内で担当になって初めてわかることがあり、それを簡潔にまとめてもらっていると、個人レベルでの試行錯誤が少し軽減できるのではないかな？

アンケート全体を通じて、合宿研究会への満足度が高いこと、JFDN Jr.の活動に対する期待が高いことが伺えた。

2-2. メーリングリスト・メールマガジン

JFDN Jr.では、FD に関する情報提供・共有を目的としてメーリングリストを立ち上げている。メーリングリストは主として「各大学の FD イベントの紹介」「合宿研究会の案内」に活用されている。また、ML 参加者が業務の中で疑問に感じたことを ML で質問し、別の参加者がそれに答えるといったやり取りも生じている。

メールマガジンは9号まで刊行されており(2011年2月現在)、様々な大学のFDの取組の紹介や学会・シンポジウムの参加報告、業務を行う上での悩み相談などがコンテンツとして含まれている。これらの記事は全てML参加者によって執筆されており、ML参加者と共に作るメールマガジンであるということができるだろう。

2-3. 学会発表

2009年度末に実施した全国FD担当者調査の結果を、以下の学会で発表した。

田口真奈・半澤礼之・村上正行・杉原真晃(2010) 若手FD担当者の業務を通じたキャリア展望 日本高等教育学会第13回大会発表要旨集録,44-45.

半澤礼之・田口真奈・杉原真晃・村上正行(2010) 若手FD担当者の業務に対する感情に他部局との連携が与える影響 日本教育工学会研究報告集(JSET10-3), 141-144.

田口真奈・半澤礼之・村上正行・杉原真晃(2010) 若手FD担当者のキャリア展望が業務に対する感情に与える影響 日本教育工学会第26回全国大会講演論文集, 153-156

3. 2011年度の活動にむけて

2011年度は、第4回合宿研究会の実施とJFDN Jr.ホームページの開設、そして経常的なMLによる情報交換・共有にメールマガジンの刊行を活動として行っていく予定である。また、現在JFDN Jr.に登録している参加者の多くは大学教育センターといった主としてFDを担う部局に所属している者が多い。2011年度からは、キャリアセンターやカウンセリングセンター、図書館といった学内の学生支援業務、教育改善業務を担当する教職員、そしてそういった活動に関心を持つ学生も含めた様々な対象に範囲を広げて活動を行っていききたい。それは、学生支援や教育改善は単一の部局で行うことができるものではなく、学内に存在する様々なリソースの連携によってこそ成し遂げることができるものだと考えるからである。若手研究者のネットワークであるJFDN Jr.においても、様々な立場にある研究者とネットワークを組み、より発展的な活動ができたかと考えている。

引用文献

石川裕之(2008)「若手FD研究者ネットワーク」『京都大学高等教育叢書27』平成20年度採択特別教育研究経費報告書「大学教員教育研修のためのモデル拠点形成2008」, 288-294.

(半澤礼之、田口真奈)